

事業報告書（令和6年度）

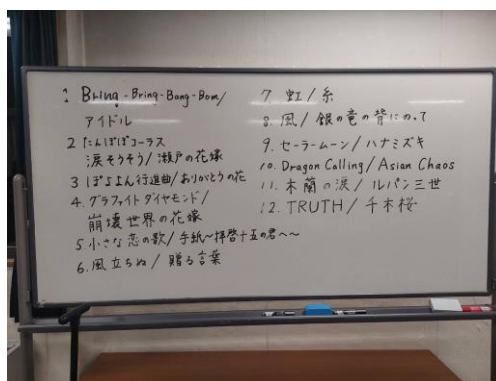
事業名 支援の必要な親子と社会をつなぐ音楽活動

団体名 支援の必要な子と親の会たんぽぽの会 担当者名 後藤智子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

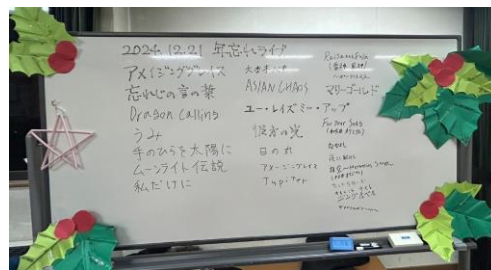
○通常活動 6月～2月毎週土曜日 18:30～20:30 岡山市東公民館 どなたでも参加可能 のべ305人 バンド練習活動 来た順に演奏したい曲をホワイトボードに書いて演奏していきます。



○夏の音楽まつり 7月7日 岡山市瀬戸公民館 発表者：バンド活動参加者、観客：どなたでも 60人 練習してきた曲の発表 本格的な機材を使っでの発表会 セタの日でもあり、参加者で短冊に願い事を書き、そのあと1週間公民館で展示していただいた。



○ライブハウスで発表体験 8月31日 ペペの家（藤田） どなたでも参加可能 34人 ライブハウスでの演奏体験



○たのしいおんがくフェス参加 2月11日 ハレノワ小劇場 バンド活動参加者 17人 参加可能なメンバーでのメドレー曲演奏



○夏の音楽まつりの動画上映会 2月22日 東公民館 どなたでも 18人 夏の音楽まつりの動画を上映、視聴



2. ESD の視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

- ・夏の音楽まつりでは、それまで送迎をしていただいていた方が、自分で公共交通機関を使って参加された。
- ・夏の音楽まつりに観客で来ていた方が、入会して演奏者での活動につながった。
- ・バンド活動に演奏してもらいたい曲をリクエストされた方が、演奏したい楽器を演奏するために活動に参加された。
- ・メンバーが意欲的に楽しそうに活動する姿が、参加へのハードルを下げ、やってみたい、できるかも、の意欲につながっている。
- ・メンバー同士が自発的に一緒に演奏する姿が出てきた。

② どのように学び合いを取り入れたか

- ・マイクと口の位置をメジャーで確認しながら、効果的な位置を見つけた。
- ・動画を撮り、上映することで客観的に自分を見る機会を作った。
- ・楽しいおんがくフェスでは演奏曲をメドレーにすることで、他の演奏者のバックで踊ったり、ライトをふったり、誰かを応援しながら舞台に立つ体験とした。
- ・各イベントの後でふりかえりの時間を持った。

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

- ・自分の演奏したい曲を練習していくため、取り組みは意欲的に活動で来ている。
- ・自分の演奏にサポーターが加わることで、誰かと一緒に演奏する楽しさを感じられるように、演奏したい候補曲が上がったらサポーターに連絡して共有した。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

- ・お客として来てくれた方々、新規入会が5家族あった。
- ・新しいイベントに参加できたメンバーがいた。
- ・自分が演奏することだけでなく、マラソンで誰かを元気づける曲を選曲して演奏したり、客層を考えてお客さんが喜びそうな曲の選曲を考え演奏する姿が見られた。
- ・ふりかえりではもっとうまく歌いたい、上手に演奏したい、など練習に向かう意欲が出てきた。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

- ・多様な人たちが音楽を通じてお互いを理解し、共に育ちあっていく社会づくりに貢献する。
- ・発表会だけでなく、他のイベントとコラボしていくことで接点のなかった方たちとのつながりを作っていく。